

## 平成30年7月開催 福部地域振興会議視察研修概要

- 目的** 養父市は国家戦略特区を取得し、農業への企業参入で耕作放棄地を解消するなど、今後の日本の農業をけん引する新たな取り組みを展開している。これらの取り組みが、後継者不足等に伴い、将来的に耕作放棄地の拡大が懸念される福部地域にも活用できないか視察した。また、平成16年に4町が合併し誕生した養父市の大屋地域振興局を視察し、今後の本市の支所のあり方についての参考とするため情報交換を行った。
- 日時** 平成30年7月24日（金）10：00～17：00
- 場所** 兵庫県養父市  
(1) 養父市役所 10：00～11：30、(2) 兵庫ナカバヤシ（株） 13：00～14：30  
(3) 養父市役所大屋地域局 15：00～16：30、(4) 大屋地域 16：30～17：00
- 出席委員** 南部敏、上山弘子、坪内悟、山本輝彦、小谷孝文、岸本正枝、濱田香、西尾祥幸、平田正雄、若狭さつき（順不同敬称略）
- 事務局** 支所長、副支所長兼地域振興課長、産業建設課長、市民福祉課長、地域振興課課長補佐
- 随行者** 地域振興局地域振興課長
- 視察内容**

### (1) 養父市役所

- 国家戦略特区として農地の流動化、企業参入、6次化を促進している。
- 農業委員会の同意を得て、農地から農地への権利の移転、設定を市長が行っている。
- 企業による農地取得の特例は現在13社。うち地元企業2社。  
※29年度末現在 39.4ha 全体(1,520ha)の2.6%

**所見** ⇒話の中で、耕作放棄地となる予備軍も含めて、解消できた成功地域もあるということで、今後の農業政策には参考にすべきことが多いと感じた。福部地域も、特にラッキョウなど繁忙期の人手不足や後継者の農業離れなど考えると企業参入は必要な施策ではないかと思われる。

### (2) 兵庫ナカバヤシ（株）

- 各図書館の製本業者（合冊、書籍修復、資料保存など）として、8割のシェアを誇る企業。  
※製本業として、生き残らなくてはならないという強い意志がある。
- 企業として生き残るために、業務の閑散期にどうするか検討する中で、にんにく生産及び加工品製造に取り組む（6次産業）。
- 年々作付面積を増やし(0.7ha⇒10.0ha)、流通ルートを開拓しながら業績を上げている。
- 耕作放棄地となる予備軍も含めて、耕作地を拡大し、管理（草刈り等）を地元自治会へ委託するなど地域貢献も進めている。

**所見** ⇒製本業者として生き残りをかけた見識の高さを感じた。農業という異種業への取り組みも企業連携はもとより研修をしっかりと取り入れ、ほぼ黒字に転じるところまで来ているということである。こういった取り組みが成功すれば、耕作放棄地の解消にもつながってくると思われる。ただし、現状としては、企業が耕作できているのは全体の2.6パーセントにすぎないということで限界があると思われる。

### (3) 養父市役所大屋地域局

- 大屋地域局は「まちづくりグループ」及び「市民グループ」が局長以下5名で運営されており、

他に「公民館グループ」として2名が別の施設にいる。

○合併前3課体制で産業建設関係があったが、合併後5年で本課集約となり現在の体制となった。

所見 ⇒災害時は本課へ応援要請することのだが、災害時以外でも常時6名体制は大変だと感じた。

#### (4) 大屋地域

○大屋地域は木造3階建の養蚕農家建築が多く残され、特区により古民家の宿として活用されている。

#### 視察写真



養父市役所 国家戦略特区・地方創生課



兵庫ナカバヤシ(株) 本社会議室



兵庫ナカバヤシ(株) 製本工場



兵庫ナカバヤシ(株) にんにく作業場



養父市役所 大屋地域局



大屋地域 古民家の宿

以上。